

一緒にしましょう コミュニティづくりを!

中野ふくし倶楽部通信

「中野ふくし倶楽部」は、主に中野区に暮らす人々の福祉の向上と子どもたちの豊かな育ちに貢献することを目的としています。

NPO 法人 中野ふくし倶楽部
発行責任者 田中芳樹
中野区中央 4-53-7 YHNビル 101
TEL 03-3384-5616
<http://www.nfcaozora.org/>

「中野ふくし倶楽部」これからの10年に向けて

理事長 矢田 和雄

「中野ふくし倶楽部」は、定款の第3条で、「福祉・教育に関する事業を行い、もって地域のコミュニティーの形成に寄与することを目的」としており、今年創立19年目を迎えようとしています。昨年、創業者中心の運営から、19年の間に育った現場職員中心の運営に舵を切りました。

地域の皆さんを支え・支えられる「中野ふくし倶楽部」を目指します。引き続きのご支援をお願いいたします。

さて、現実の地域を見てみると、「迫り来る危機」という感じを持たざるを得ません。かつては「高齢者社会論」あるいは「少子高齢化」は強調されてきましたが、その背後に進行するものへ洞察・注目・掘り下げ・研究・対策が不十分であったと言わざるを得ません。

『人口減少社会』とはなにかー人口問題を考える12章(友寄英隆著)が注目するのは「**家族の解体**」です。この中で人口減少が「社会的孤立」を生み、「社会の解体」へ向かうと警鐘を鳴らしています。

「老いる家 崩れる街 住宅過剰社会の末路」(野澤千絵著)が指摘するのは「不動産」の「**負動産化**」です。これは明治以降の日本の価値観の転換の進行であり、現実の進行に対して、法制度、税制度、裁判制度などの「社会のシステム」の機能不全を指摘しています。

これからの10年は、1974年のオイルショック以降の臨調＝行革路線、1995年からの新自由主義構造改革の矛盾が吹き出す10年となるでしょう。

そういう時代の中で、「中野ふくし倶楽部」が着実に目的を追求していくためにどうするか、身を引き締めて臨まなくてはなりません。本年もよろしくお願ひ致します。



あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願ひ致します

NPO 法人 中野ふくし倶楽部

- 理事長 矢田和雄
- 副理事長 田中芳樹
- 理事 内田総平
- 理事 梅田恵子
- 理事 佐久間恵
- 理事 筒井真木
- 理事 山崎由紀子
- 監事 塚原哲朗
- 監事 西 惇

募集中!

サービス提供責任者

介護福祉士相当資格者 正社員 月給 24万5千円以上 週4日短時間勤務あり 職歴加算あり

常勤ヘルパー

ホームヘルパー2級、初任者研修修了者、介護福祉士のいずれかの資格をお持ちの方 正社員 月給 20万円～ 週4日短時間勤務あり 職歴加算あり

非常勤ヘルパー

ホームヘルパー2級、初任者研修修了者、介護福祉士のいずれかの資格をお持ちの方 年齢、経験不問 勤務地：中野区および近隣区 給与：生活援助時給1,250円～ 身体介護時給1,550円～ 経験、資格に応じて加算あり 時間外手当あり 移動交通費1回200円 有給休暇あり

TEL 03-3384-5616

ご紹介ください

介護の質、不断に高めて ヘルパーさん向け スキルアップ研修



訪問介護の仕事には、専門的な知識や教養が必要です。そのためには不断に研修し、ヘルプの質を高めていく努力が不可欠です。「あおぞら」では毎月「スキルアップ研修」を行い、ヘルパーさんが介護の質を高めていけるよう支援しています。その様子をご紹介します。

8月30日 「日本の近代史」



ヘルパーさんが歴史を学ぶの？ そうです。高齢の利用者さんと接するとき、歴史の知識は役に立ちます。「あおぞら」サビ責の石澤さんを講師に、日本の近代史を勉強しました。わかりやすく、楽しい解説でした。

【参加者感想から】

- ・認知症の利用者さんでは、戦争時代のことは良く話されません。私には経験はありませんが、勉強になりました。
- ・利用者さんで 100 歳の方がいらっしゃいます。時々満州から引き揚げてきたこと、つかった事をお話してくださいませ。

10月31日 「接遇から見直す認知症ケア」

グループホーム「コルテンポ」の職員の方々と合同で学びました。42 名の方が参加して頂きました。

コルテンポ施設長の糸井川順子さんが認知症の利用者さんに扮してのロールプレイング。訪問するヘルパーさんの演技を通じて、接遇のポイントを体験しました。グループに分かれてのディスカッションでは真剣な評価と検討がされました。「ヘルパーの都合で動かない」「利用者が嫌だと言っていることで、無理やり自分のペースにひっぱられない」などの意見が寄せられました。「気づくこと」の大事さを教えられ、充実した内容になりました。



【参加者感想から】

- ・糸井川さんのその場に合った熱演ぶりは、よかったですと思います。
- ・どんな状態、反応の認知症でも、ヘルパーは腹を立てず、自分の気持ちを抑え、まず利用者をやる気にさせる話術(ほめる、引き算方法)を活用するよう心がけていきたいと思っています。

11月24日 「感染症について」



新渡戸訪問看護ステーションの看護師、大峰真由美さんに講師をして頂きました。感染症を防ぐための注意について、映像を交えてわかりやすく解説して頂きました。聴診器や手洗いチェッカーを使っただけの実演も、実感としてよくわかりました。



ヘルパーの仕事は、本当にきめ細かい注意が必要です。念には念を入れて確認メモをとります。それでも人間ですから、失敗やミスは起きます。そういうときは自己判断せず、報告・連絡・相談を怠らないこと。実例をまじえながらのグループ討議で、よくわかりました。

12月21日

「苦情・事故の事例から学ぶ」